

日本共産党
足立区議団ニュース

2007 3 8
NO. 4
日本共産党足立区議団
中央本町1-1-7-1区役所内
e-mail:acmp@blue.ocn.ne.jp
区議団ホームページ

元気な商いが街の活力と賑わいを生む 商店会・商店を励まし、支援策を

第三日目(3月5日)は、鈴木秀三郎議員と大島芳江議員が質問しました。その要旨をお知らせします。

鈴木秀三郎議員の質疑は次のとおりです。



質問する鈴木秀三郎議員

区は、予算案を「まちの活力を育む予算」としているが、街の活力は商店街の賑わい、商店が元気で商いをすることにある。○質問「子育て支援パスポート事業」は、協力する商店で買い物したお客さんが、パスポートを提示し、5%の割り引きをうけるというものです。産業経済部として商店の協力を得るために、どのような取り組みをしているか。

●答弁「区の商店会連合会には、半年前から協力をお願いしている。区商連未加盟商店会は3ヶ月前から私もから出向き、協力をお願いしている。

協賛商店の参加促進を図れ!

○質問「この事業は、商店の協力がなければ成り立たない。この事業の産業経済部予算はいくらか。」

●答弁「商店街へのステッカーなど40万〜50万円。」

○質問「この事業の対象世帯は5万世帯というが、協力する商店を何件ぐらい見込んでいるのか。」

●答弁「参加店を募集をしている。思いとして4ヶタ。何か一千万を目安にがんばりたい。」

○質問「かつてポイントカード事業は加盟店が少なくうまくいかなかった。協力する商店が少なければ混乱する恐れがあるがどうか。」

●答弁「ポイントカード事業と異質のものと考えて。商店のサービスで5%引いていただく。商店の心意気が求められる。」

○質問「日常生活で買い物する範囲、身近なところで協力商店がなければ「子育て支援パスポート」を貰ったけど使えない」ということになりかねない。」

●答弁「今、最大限努力させていただいている。いろんな心配事があるが何とかのりきっていきたい。」

○質問「多くの商店は、売り上げの5%を消費税として義務付けられている。その上、この事業の協賛店になると売り上げの5%を割り引く。協賛する商店・個人商店には大変な負担になる。考慮したのか。」

●答弁「私もはお店の負担でお願いしている。商店街がきれいになったりする環境づくりで支援していきたい。」

○質問「この事業では、産業経済部の予算はわずか40数万円しかない。協賛する個人商店の加入をより多く促進するために、何らかの支援策が必要と思うがどうか。」

●答弁「よろづ相談所など地域の活



力とともにあゆむ施策を進めてきた。商店街白らの力で活力をつくる。そのための環境条件整備を区は行つ。○質問「滋賀県野洲市のカタログには、商店名、電話やファックス番号、業種とサービス内容を簡潔に、付近の略図もあわせて掲載している。足立区でも区内の希望する商店をつのり、カタログを作成する。子育て支援パスポート協力店も掲載しお知らせする。例えば区内5〜6地域に分けて作成し地域に配布する。このような支援はどうか。」

●答弁「PRの仕方。参加店の区民周知の仕方。いろんな事を検討中。今、指摘のあった事含めて検討させていただきます。」

「創業するなら足立区で」というなら チャレンジショップ再開に力を尽くせ!

○質問「チャレンジショップ事業は、「商店街の空き店舗を活用し、区民の創業を支援し、まちの賑わいをつくる。こうした異議ある事業として始めたものだ。「ネオ千住」から何件の店が巣立ったか。」

●答弁「平成13年8月からおよそ4年半の間に参加者44店舗。この内24店舗が独立した店を持つにいたった。」

○質問「この建物の持ち主が建替えることになり「ネオ千住」は閉鎖されたが、建物完成後に再開を考えていたのか。」

●答弁「平成18年3月で閉店。同年8月頃にオーナーから1棟全部借りるならとの条件があった。私どもは値がはるので断念した。」

○質問「借りられないのであれば、他の活用できる空き店舗を探す努力をしたのか。」

●答弁「チャレンジショップの場所やスペースがキーポイント。今現在、探しあてていない。今後も努力する。」

○質問「創業するなら足立区で」と言っているのに、創業支援に大きな役割を果たしてきたチャレンジショップ事業の平成19年度予算はゼロだ。」

●答弁「私も、鋭意努力している。予算計上ゼロというが、今後見つければ議会でも相談したい。」

労働法をわかりやすくまとめた冊子、発行へ!

○質問「昨年4定で「高校等を卒業し、就職を予定している青年を対象に分かりやすい労働法をまとめた冊子を検討しています」と答弁したが、どんなものを準備しているか。」

●答弁「都の「労働契約の手引き」が簡単と判断し、準備している。」

○質問「いつ発行予定か。どのように配付するのか。」

●答弁「年度内に何とか発行したい。高校卒業後就職する人に配布。区内、区の出先機関、若者サポートステーションなど全体で5千部発行。」

○質問「東京芸術センターによる風害対策をすすめてよ。」

●答弁「大変困難な課題と認識。専門家の意見を聞いて考えていきたい。」



天空劇場・会議室の使用料

(1日34万円)

(6室で1日9万円)

誰も使っていないくても年間営業日の6割は区が負担

大島芳江議員の質問要旨は次のとおりです。



大島芳江議員 質問する

コミュニティ・アーツの健全化にむけた取り組みを問う

○質問ーコミュニティ・アーツには負担金を交付してきていたが、06年からは委託料になった。なぜか。

●答弁ー負担金の場合、実績に応じて最終的に清算をし、余剰金があれば返還させる。委託金については渡しきり。受託者側がその金額の中で事業を行う。いずれにしても精査に精査を重ねて必要経費を支給し、あとは企業努力で効率的な運営をしていただく。こういう意味合いで、負担金から委託金にかえた。

○質問ー精査をしていくのも区の責任。来年度予算は、06年度当初に比べ、四千万円ほど減額されているが、理由はなにか。

●答弁ーおよそ人件費の減少にともなう減額。正社員は、マイナス2名。契約社員でマイナス12名。16年度は、柿落とし公演のため、それに応じた自主公演、演劇を製作するというのを主眼においたスタッフの人件費等だった。自主公演だと経営上うまくない事態がさまざま発生する。このことをふまえ、例えばプロデューサーや、劇場を運営していないときに必要のない照明、音響、舞台操作等のスタッフは外注をするなどで効率化を図る。これによって、契約社員、正社員減少は可能。

○質問ー自主公演を少なくしているということだが、公演の赤字は減少しているのか。

●答弁ー平成16年度の柿落とし公演から比べれば格段に減少している。

○質問ーそうすると、館長、芸術監督は本当に必要なかと思う。区民がもっと利用できるように、例えば料金を低くするか、区民のニーズに応えるような演目の設定。観客を増やす努力はどのようにしているのか。

●答弁ー鑑賞料金の設定について貸し館で営業するときには、区民であることを窓口チケットを買うときに証明していただければ、ディスカウントプライスで販売している。また、自主公演を行う場合には、一〇一〇円で観劇できる席をもうけたり、友の会に加入することによって10%割引ディスカウントプライスで見られるよう指導している。友の会の体制では、例えばメール会員の設定という新しいアイデアがでてきている。

○質問ーさまざまな取り組みをしながら、区民のみならず、より安い料金でいい文化に親しめる環境を作っていたいただきたい。第一稽古場を改造して、劇場のようなも

のができたと聞いたがその辺はどうか。

●答弁ー昨年第一稽古場を小劇場としても使えるような仕組みを取り入れて、例えば講談、ひとり芝居といった人数が少ない集客のほうに、観客に満足度を与える演日について使えるようミニシアターとした。

○質問ーそこは何人はいえるのか。また、料金ほどのくらいか。劇場は土日だと40万。平日で35万とかなり高いが、稽古場と同じ金額で小劇場を使用できるのか。

●答弁ー収容人数は、マックス300人まで収容できる。利用料金は通常稽古場で使用する料金と同じで将来的に、条例改正したい。

○質問ー稽古場と同じだと、1日7万円。大きい劇場を使わなくてもよいものは、おおいに利用できる。アールビルしていただきたい。コミュニティ・アーツに区の職員が派遣された。アーツの建て直しだけでなく、シアター一〇一〇、芸術センター、芸大、それらの連携を強固にしていきたいながら、文化芸術の拠点にする答弁していたが、この3者の話し合いは、どの程度できてきたか。

●答弁ー私どもも、コミュニティ・アーツ、芸大とは定期的に会合をもっている。芸術センターは、新産業支援課を通じて我々のメッセージを届けており、その返答をいただき、この流れで実質3者との連携となつていく。

空き室にもお金を払い 総合商事のもうけを保障

○質問ー産業センターを通じての間接的なやりとりでは、なかなかやりにくいと感ずる。特に、芸術センターの天空劇場と、会議室はパートナーシップとして区は年間6割分を区民利用分という形で負担しているが、天空劇場と、会議室の区負担分はどのくらいか。

●答弁ー天空劇場は1日34万円、消費税こみで七千四百万円。会議室は1日9万円、消費税こみ二千九百円。

○質問ー昨年11月の委員会報告では、4月から9月の実日数で183日のうち、6割は110日分になる。実際に区民が利用した日は、ホールで65日、会議室の稼働も3割程度しかない。そうすると、ホールは1年換算でだいたい90日分が空き室。計算してみると三千万円くらいになる。会議室の空きは全体の7割とみると、およそ一四〇〇万円が、使っていないのに区からお金が支出される。空気にお金を払っていることになると思いがどうか。

●答弁ーまだ昨年4月にオープンしたばかりで、周知、PRが不足している。さらに使いやすい施設になるよう努力してまいりたい。

○質問ー使った分だけ払うのは分かるが、使わないのにその分も払っている。結局総合商事のもうけを保障している。先日元町の方が芸術センターの上から千住のまちをみてみたいということで芸術センターにいったらホールを借りないとエレベーターが行かないと言われた。空気にお金払うくらいなら、この方たちに、せめて上から眺めることぐらいやってもいいじゃないか。その他付帯費用負担も大変。付帯費用を会場使用料に盛り込んで貸し出すことは考えられないか。

●答弁ーこのホールも別料金でとられているという状況がある。ただ、私どもも6割借りるということをございますので、その分含めて粘り強く交渉してまいりたい。